

履修カルテの記入及び利用方法について

—保育・教職実践演習／教職実践演習（小中）—

目次

1. 「(保育・) 教職実践演習」とは何か	1
2. 「(保育・) 教職実践演習」とは何か	1
3. 履修カルテの活用方法	1
(1) 履修カルテとは何か	1
(2) 履修カルテを活用する目的	1
(3) 自己学習課題	2
別表A	2
(4) 自己学習課題の内容	2
(5) 自己学習の進め方	3
別表B	4
別表C	5
別表D	別冊
4. 自己学習課題の保存・提出方法（Tドライブ）	5

日本福祉大学 教育・心理学部

1. 「(保育・) 教職実践演習」とは何か

教育職員免許法施行規則改正に伴い、2010年度入学学生より「教職実践演習」(*)という科目が教員免許を取得するさいの必修科目になりました。

「教職実践演習」は4年生後期の科目です。1年生から3年生までに、教員免許を取得するためにたくさんの授業を受けます。教育実習にも行きます。それらが全部終了した後で、本当に教師になってよいかどうかを確かめるための「最後の仕上げ」のための科目です。

- * 「教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く。）の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものとする（第十条及び第十条の四の表の場合においても同様とする。）」（教育職員免許法施行規則第6条の2 別表備考11）
- * 「(保育・)教職実践演習」は、幼稚園教諭普通免許状取得のための必修科目であると同時に、保育士資格取得にあたっては運営指針という「総合演習」に対応するものです。

2. 「(保育・) 教職実践演習」の目的と概要

◎教育者としての使命感や責任感を自覚し、社会人にふさわしい社会性を磨きつつ、子どもへの共感的な理解ならびに教科・教科外にわたる指導能力を身につけ、4月から教壇に立つことができるようにすることを目的とする。

◎教科研究・教材研究、授業づくりなどにかかわるゼミナール・模擬授業、学級経営、児童・生徒会活動、学校行事にかかわる実践記録の検討、ロールプレイングなどを行う。また学生の社会性を育てる観点からこれらの取り組みを学生自身が企画し運営する。さらに大学周辺の地域の保育所・幼稚園・小学校・中学校および付属高校において、インターンシップを行う。

3. 履修カルテの活用方法

(1) 履修カルテとは何か

病院にかかる患者のカルテが、患者の病歴を記載するものであるのと同じように、履修カルテとは、教職をめざす学生が、教職課程履修開始時より卒業までの間、自分の学習状況を自主管理するためのポートフォリオ（学習履歴）です。とりわけ、大学では制度としての授業以外に自主的に学習することが求められます。履修カルテは自主的な学習を支援するためのツールとして活用するものです。

別表B・Cに、修得した単位以外にどれだけ自主的に学習をしたかを記入し、自主的な学習がどれだけ進んでいるかを確認するようにします。

以下で詳しく説明しますが、4年前期を修了する時点で、履修カルテで一定水準の自主的な学習の到達状況が確認されないと「(保育・) 教職実践演習」を履修することができません。

(2) 履修カルテを活用する目的

4年間の学生の教師（・保育者）としての成長過程を教員（主として各学年のゼミ担当教員）と学生が共有することが目的です。大学は自主的に学習することが基本ですから、履修カルテを用いてゼミの先生と自主的な学習をどう進めればよいかについてよく相談してください。また、最終学期（4年後期）で、卒業までに何を学習したらよいか明確にさせてください。

(3) 自己学習課題

別表 A をみてください。横軸（スコープ）に、A. 教師（・保育者）としての使命感や責任感、B. 社会人としての社会性・対人関係能力、C. 幼児・児童・生徒理解の能力、D. 教師（・保育者）としての実践的指導力、があります。この四つが教師としての基礎的力量です。縦軸（シークエンス）には、1. 入学前の経験、2. 大学での授業等、3. 課外活動等、があります。この三つが四つの基礎的力量をいつ・どこで身につけるかを表します。これらの縦と横で12の学習ユニット（単元）ができます。これに、4. 指定文献の学習をふくめると13の学習ユニットになります。この学習ユニットのなかに書いてあるのが自己学習課題です。

指示に従って、レポートや作品を作成して提出してください。提出方法は以下で説明します。

別表 A

自己学習課題	A. 教師・保育者としての使命感や責任感	B. 社会人としての社会性・対人関係能力	C. 幼児・児童・生徒理解の能力	D. 教師・保育者としての実践的指導力
1. 入学前の経験	どのような教師・保育者になりたいと思ってこの専修に入学しましたか。【必須】	高校までの学級活動、児童会・生徒会活動、サークル、ボランティア、自主的な社会的活動でどういうことを学びましたか。	これまで出会った指導者（教師、保育者、塾講師、スポーツクラブ、サークル等）からどのような影響を受けましたか。【必須】	これまでの学び（学校の教科に限らない）でもっともおもしろかったもの、得意なものは何ですか。紹介してください。【必須】
2. 大学の授業等	教員免許・保育士資格を取得するための授業で教師や保育者のあり方・指導力について学んだことを述べてください。	授業で企画したイベント、体験から学んだこと（教職インターンシップ、ゼミ合宿、フィールドワークなど）を述べてください。	教員免許・保育士資格を取得するための授業等で学んだ「幼児・児童・生徒理解」の方法について述べてください。	教育実習や保育実習で学んだことについて述べてください。
3. 課外活動等（ボランティア、サークル、アルバイトなど）	サークル、ボランティア、アルバイトなど学外の活動で考えた教師や保育者のあり方や指導力について述べてください。	授業以外で企画したイベントから学んだこと（FD、ゼミ交流会、新入生歓迎セミナーなど）を述べてください。	サークル、ボランティア、アルバイトなど学外の活動で学んだ「幼児・児童・生徒理解」の方法について述べてください。	サークル、ボランティア、アルバイトなど学外の活動で新たに学んだ科学・文化・スポーツに関する知見について述べなさい。
4. 指定文献の学習	一般教養、専門（教科の専門内容に関わる文献、指導法に関わる文献）（別表 D）【必須】			

(4) 自己学習課題の内容

- ① A-1、C-1、D-1 は必須。子ども発達学科の学生は1年後期に、心理学科の学生は2年前期に終了することを目標に進めること。各 1200 字程度。
- ② B-2 は総合演習、基礎演習、専門演習でのゼミ活動を含む。ただしイベントを企画し運営した者とする。企

画に参加しただけではレポートを提出することはできない。1200字程度。

- ③ D-2は、教育実習や保育実習で学んだことについて述べる。1200字程度。ただし、教育実習・保育実習で作成したり、使用した教材・教具・指導案等のデジタルデータ（文字、映像、写真、音声）と400字程度の解説で代えることができる。

※2017年度以前の入学生は、以前のマニュアルでD-2（実習）とD-2（授業）の両方を提出することが必須であったが、D-2（授業）の提出は不要とする。

- ④B-3は、イベントを企画し運営した者とする。企画に参加しただけではレポートを提出することはできない。1200字程度。
- ⑤C-3、D-3については、課外活動で制作した作品、演奏した楽曲、保育日誌・おたより（実名がある場合は黒塗り）、のデジタルデータ（文字、映像、写真、音声）で代えることができる。ただし、提出の際に400字程度の解説をつけること（〇〇のサークル、ボランティア、アルバイトで作成・使用、作品等の内容の説明など）
- ⑥4は必須。別表Dのリストから専門編、教養編それぞれ5冊程度、計10冊以上とする。なお、10冊中4冊までは、卒業研究に関わる文献でゼミ担当教員が指導したものであれば、課題とすることができる。各1200字程度。4年前期までに終了すること。

(5) 自己学習の進め方

- ① 13の学習ユニットから、A-1、C-1、D-1と4を必ず入れて自己学習計画を立てること。その際、以下の条件に留意すること。

A-1、C-1、D-1を含む 5課題の達成	学校教育専修の学生	2年後期レポート試験提出日までに達成していることが、3年次の教育実習の登録条件になります
	保育・幼児教育専修の学生	3年後期レポート試験提出日までに達成していることが、4年次の教育実習の登録条件になります
A-1、C-1、D-1、4を含む 8課題の達成	全対象学生	4年前期レポート試験提出日までに達成していることが、4年後期の（保育・）教職実践演習の登録条件になります
A-1、C-1、D-1、4を含む 10課題の達成	全対象学生	4年後期レポート試験提出日までに達成していることが、（保育・）教職実践演習の単位認定条件になります

※A-1と4の1冊目については「総合演習Ⅰ」の中で取り組むが、その後は主体的・計画的に取り組むこと。（心理学科で教職を考えていない学生が「総合演習Ⅰ」でA-1に取り組む際は、「教師・保育士」の代わりに別の職業をあてることができる。また、4についても別表Dによらず自由に選択することができる）

- ② 課題はレポート作成、授業で制作した作品、演奏した楽曲、教育実習で作成したり使用した教材・教具・指導案、イベント実施報告書等のデジタルデータ（文字、映像、写真、音声）で提出する。提出方法は、WEB上に作成された各自のフォルダに保存する。そのさいフォルダにおいてある別表B・Cのファイル（課題達成記録）の該当する課題番号・記号の提出日に提出年月日を記入する。達成確認欄は、学生は閲覧できるが記入はできない。
- ③ ゼミ担当教員（2年次は所属専修の専任教員）は、定期的に担当学生のフォルダを閲覧し、課題が提出されていれば、課題に目を通し合否をつける。合格の場合課題達成一覧表（別表B）に記入する。不合格の場合は、学生に通知する。
- ④ 4年前期の子ども発達学専門演習Ⅱが終了した時点または後期の開始時点で、ゼミ教員と学生とで最終学期の学習課題を確認する。終了時点でゼミ担当教員が4年間の総合所見を作成する。

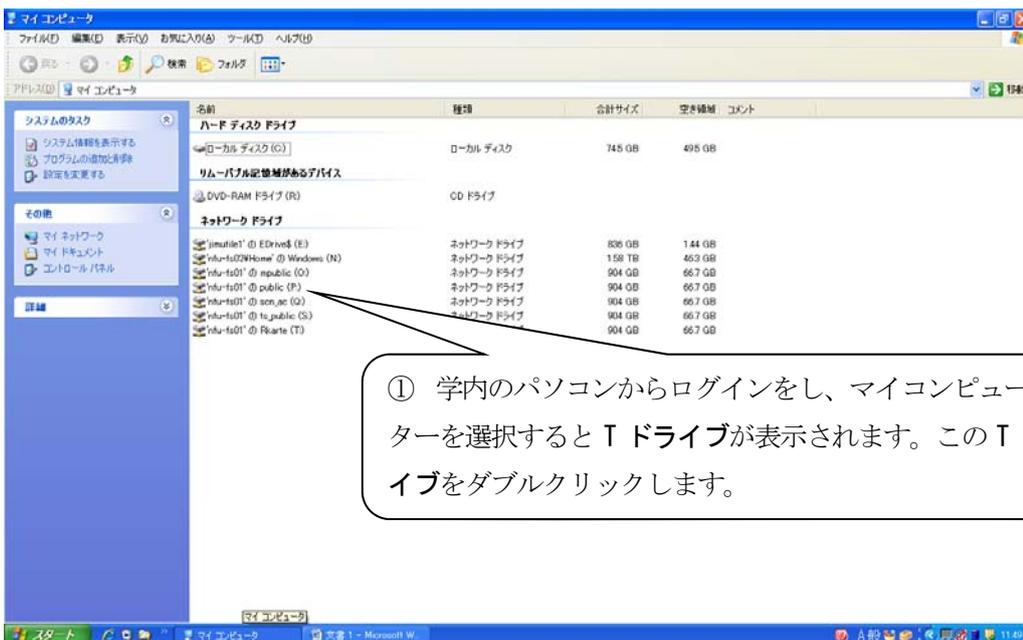
別表 B

課題番号・記号	課題内容	提出日	達成確認	
			教員名	確認日
A-1	どのような教師・保育者になりたいと思ってこの専修に入学しましたか。			
B-1	高校までの学級活動、児童会・生徒会活動、サークル、ボランティア、自主的な社会的活動でどういうことを学びましたか。	提出(保存)時に学生が記入する。	合格の場合、担当教員が教員名と確認日を記入する。	学生は閲覧できるが記入できない。 教員は閲覧も記入もできる。
C-1	これまで出会った指導者(教師、保育者、塾講師、スポーツクラブ、サークル等)からどのような影響を受けましたか。			
D-1	これまでの学び(学校の教科に限らない)でもっともおもしろかったもの、得意なものは何ですか。紹介してください。			
A-2	教員免許・保育士資格を取得するための授業で教師や保育者のあり方・指導力について学んだことを述べてください。			
B-2	授業で企画したイベント、体験から学んだこと(教職インターンシップ、ゼミ合宿、フィールドワークなど)を述べてください。			
C-2	教員免許・保育士資格を取得するための授業等で学んだ「幼児・児童・生徒理解」の方法について述べてください。			
D-2	教育実習や保育実習で学んだことについて述べてください。			
A-3	サークル、ボランティア、アルバイトなど学外の活動で考えた教師や保育者のあり方や指導力について述べてください。			
B-3	授業以外で企画したイベントから学んだこと(FD、ゼミ交流会、新入生歓迎セミナーなど)を述べてください。			
C-3	サークル、ボランティア、アルバイトなど学外の活動で学んだ「幼児・児童・生徒理解」の方法について述べてください。			
D-3	サークル、ボランティア、アルバイトなど学外の活動で新たに学んだ科学・文化・スポーツに関する知見について述べなさい。			

別表 C

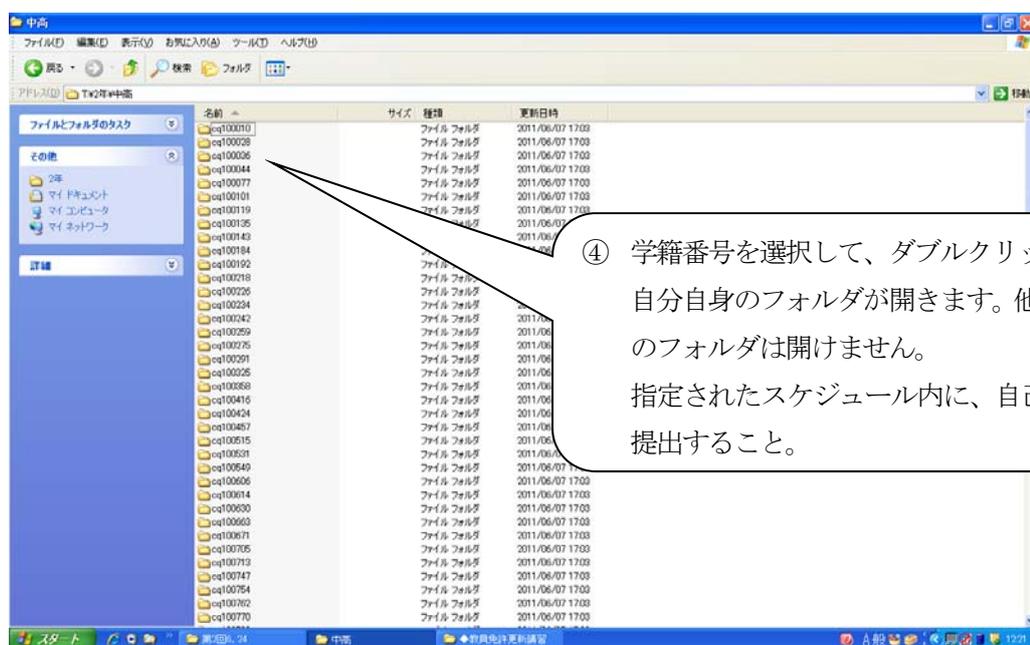
番号	書名 (著者名と署名を記入)	提出日	達成確認	
			確認日	確認教員
1				
2	提出（保存）時に学生が記入する。 音楽会・演奏会は4回以上で1課題。 美術館・博物館は4回以上で1課題。	提出（保存）時に学生が記入する。	合格の場合、担当教員が教員名と確認日を記入する。 教員は閲覧も記入もできる。 学生は閲覧できるが記入できない。	
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				

4. 自己学習課題の保存・提出方法（Tドライブ）





③ 所属する学科専修のフォルダをダブルクリックします。



④ 学籍番号を選択して、ダブルクリックをすると自分自身のフォルダが開きます。他の学生(学籍番号)のフォルダは開けません。指定されたスケジュール内に、自己学習課題を保存・提出すること。

Tドライブ使用の注意事項

1. Tドライブは教職課程履修者が「履修カルテ」を保存・提出するための専用フォルダです。それ以外の目的でファイルを保存しないで下さい。
2. 保存したファイルを誤って削除してしまう可能性も考えられますので、**必ず各自でバックアップをとっておいて下さい。**